令和２年度　寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

１　評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

（１）評価者

①寄附者（２１団体　※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（５名）
公立大学法人会津大学　理事　岩瀬次郎　氏
一般財団法人大原記念財団 理事長（兼 大原綜合病院 院長）佐藤勝彦　氏
公立大学法人山形県立保健医療大学　理事長兼学長　前田邦彦　氏
公益財団法人福島県産業振興センター　理事長　松﨑浩司　氏
奥羽大学　薬学部長　衛藤雅昭　氏

③学内評価者（４名）
医療研究推進戦略本部長、副本部長、医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

（２）評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている　（計画の 100%超）
A：評価できる、適切である（計画の 80～100%程度）
B：やや改善を要する　（計画の 60～80%程度）
C：改善を要する　（計画の 60%未満）

２　評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

特に、講座の目的および計画に対して、どのような活動が行われ、どのような成果が上げられたのかを寄附者へ丁寧に説明すること、積極的に論文化に取り組むこと等の助言や、次年度が最終年度の講座に対しては、事業計画を完遂することへの期待が寄せられました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
心臓病先進治療学講座	教育	S	・寄附目的に沿った適切な教育活動が展開されており、講演実施回数と参加人数を踏まえ、十分に効果をあげているものと考えられる。 ・コロナ禍の状況にもかかわらず、本講座の設置目的に沿って、活発に教育活動が実践されていることを評価したい。 ・広く普及の教育活動が実施されている。 ・WEB やテレビを通した教育が行われており、素晴らしい。 ・講演ごとにアンケートなどでその効果を調査されていると思うので、その結果を分析し、適宜これからの活動に還元していただきたい。
	研究	S	・睡眠呼吸障がい（SDB）やその他の生活習慣病への心血管系からのアプローチは極めて学際的で、これらの疾患の病態の理解や診断法の確立に極めて重要な取り組みと思われる。その中で、多くの実績が産み出されていることは高く評価される。 ・最終年度であるが、多くの業績を上げていることから診療、研究、教育活動の継続を望みたい。
	診療	S	・研究活動と連動し、精力的に診療活動が行われている。 ・研究の成果が診療に生かされている。 ・病診連携の詳細、地域における講演勉強会の詳細を記載していただきたい。
肺高血圧先進医療学講座	研究	S	・海外学会での報告、論文報告について質及び量の面からも確実に出されており、国内、国外に積極的に配信されていることから、本寄附講座の優れた成果が確認できる。 ・症例の解析や臨床所見、実験動物を用いた病態の解析など、多角的なアプローチによる肺高血圧の病態の解明および診断法の確立や予後の評価などに大変有益な知見が得られている。 ・設置期間の研究計画では「右室携帯評価による新たな診断法確立」とあるが、多くの要因分析の研究が診断法に結びついているところを示していただきたい。 ・本講座での研究活動の適切な総括と継承を期待する。
	診療	S	・希少疾患である肺動脈性肺高血圧症に対しての診断の向上の為に福島県全体における本講座が寄与する影響は大きく、適切に診療されていることが確認できる。 ・潜在的な患者はある程度居ると考えられるが、検査や確定診断に大掛かりな設備が必要であり、実際の症例と遭遇する機会も少なく、体系的な診療を展開することは極めて難しいと思われる。県内全域に診療拠点（専門外来）を置き、体系的におこなうことは極めて有意義であり、潜在患者の掘り起こしや臨床的知見の集積にもつながり、極めて、重要な取り組みと考える。

生体機能イメージング講座	研究	A	・南東北創薬サイクロトロン研究センターの立ち上げ、新研究計画を経て、治験、各種 PET 効果の比較など着実な研究の進捗。施設の立ち上げ状況に応じた適切な計画の変更が成されている。 ・（一財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院に併設された南東北創薬・サイクロトロン研究センターと連携し、最新の機器を駆使した、先進的な取り組みと評価する。 ・寄附目的に沿った研究活動が展開されている。講座主任が変更となり、事業計画が予定通りに完遂されることを期待する。 ・新たな PET 薬剤の承認と臨床研究に開始は評価できるが、学術報告が乏しい。今後の研究計画の詳細を明らかにしてもらいたい。
多発性硬化症治療学講座	教育	A	・若手医師の教育など年度ごとの計画が明確であり、計画に沿って教育活動が実施されている。国内外への活動も幅広く実施。アンケートを実施し教育効果も検証。 ・活動ごとにアンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みがなされているようだが、さらに具体的な解析が待たれる。また、講演等の主旨などを理解したかどうかを評価する適当な尺度があれば、それを活用した調査も有効かと思う。
	研究	S	・多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)へ多角的なアプローチは極めて学際的で、大変重要な取り組みと思われる。その中で、病態の解明や実臨床的な診断基準の確立、疫学的調査など多くの実績が生み出されていることは高く評価できる。 ・出版されている論文の質が高く、オリジナリティーの高い研究が行われている。
	診療	S	・多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)の診療には、様々な診療科や施設との連携が必要であり、これらを有機的に結びつけた積極的な診療体制の構築自体が大変素晴らしい実績と評価される。 ・セカンドオピニオンを行うなど、専門性の高い診療が行われている。 ・このような体制を維持するとともに、今後、全県的に拡大し、実績をかさねることを期待する。
医療エレクトロニクス研究講座	研究	A	・非常に実用的な課題を含む研究活動であり、大変有用な取り組みと思われる。 ・近年のうつ病が増加しているなか、心と体の健康を保つうえで健全な睡眠が必要になると考えられる。本研究により睡眠の「質」向上を図るために数値化が今後必要でないかと考えられるので、引き続き研究を進められることを期待する。 ・当寄附講座は終了するが、呼吸状態重畳脈波検出装置の実用化への継続を期待する。 ・睡眠時無呼吸症候群や月経周期の把握については、臨床的な応用が期待される。
心臓調律制御医学講座	教育	A	・今後の教育方針として、対象学生の習得度の評価や実習に対する意見などへの言及があり、本講座の教育活動への真摯な対応がうかがえる。 ・現行の教育の問題点が明確に示されており、改善が期待できる点が優れている。 ・市民や医療スタッフ向けの教育なども検討してもらいたい。 ・対象を学生に限っているが、専門医への教育も重要なテーマである。 ・専門医を目指す若手医師に対するハンズオンセミナーなど、教育が必要な分野は多いのではないか。次年度以降、検討いただきたい。

心臓調律制御医学講座	研究	S	・「不整脈」は近年重要な循環器疾患としてあらためて注目されており、とくに、最新のデバイスを用いた治療手技については、日々、多くのイノベーションが図られ、日進月歩の進化を示している。また、不整脈を含む心イベントの予測因子の解析は心不全の重症化や突然死などを抑制する上で非常に重要。本講座における臨床研究、介入研究は、それらをリードする先進的なもので、極めて有用であり、高く評価されるべき取り組みだと思う。 ・次年度が設置期間の最終年度となるが、その後の研究の継続や発展も見据えた展望を期待する。
	診療	A	・「不整脈」は主要な循環器疾患であり、特に、最新のデバイスを用いた、侵襲的な手技を含めた本講座における診療は極めて重要であり、実際、多数例の診療が実施されている点は高く評価される。 ・今後、県内全域をカバーするような継続的な取り組みを期待する。
肥満・体内炎症解析研究講座	研究	A	・糖代謝、モデルマウス作成の新たな発見の研究成果など着実。 ・寄附目的にそった研究が計画的におこなわれ、多くの成果を生み出していることを高く評価する。 ・寄附講座の研究計画の目標である「臨床還元の礎となる研究成果としてのデータを得る」に至るため、最終年度としての研究計画を明確にして進めていただきたい。 ・本講座での研究成果の臨床応用やその後の方向性・ビジョン等について、もう少し言及してもよいのではないかと思われる。
ヒト神経生理学講座	研究	S	・・TMS などの非侵襲的刺激を利用した神経疾患・神経損傷の治療法の検討およびその基盤となる神経可塑性の誘導に関する研究は多くの患者に福音をもたらす重要な取り組みと思われる。 ・初年度ということもあり具体的な研究成果は次年度以降に期待されるが、計画通りに進めており評価したい。 ・将来性、かつ実現性の高い研究に仕上げてもらいたい。 ・研究、および研究者の指導とも益々の実績を重ねてもらいたい。
	診療	A	・目的に沿った適切な診療活動と当院医師への指導が展開されており、期待を上回る成果を上げているものと認められる。 ・神経内科の診療のレベルアップ、とくに会津地方での神経内科診療の充実に取り組んでおり、本講座の診療活動は、福島県内全域での脳神経内科診療の底上げに寄与していると思われる。 ・具体的な症例の分析や本講座の研究活動で得られた知見を基盤とした臨床応用についても言及してもらいたい。
周産期・小児地域医療支援講座	研究	A	・寄附講座の研究活動に即した取り組みがなされ、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、蓄積された臨床データに基づき周産期・小児医療の向上につなげることができている。 ・当該地域の周産期・小児医療を充実させるためには必要不可欠であり、さらなる成果を期待するとともに、継続した研究を望む。 ・小児科、産婦人科の医師育成プログラムの開発に期待したい。 ・研究成果を取りまとめ、それが次の診療や地域密着型の研修プログラムの改定に生かされるようにしてもらいたい。 ・寄附目的に沿った適切な活動が展開されていると考えるが、学会発表など、成果の公表手段については改善が必要と考えられる。

周産期・小児地域医療支援講座	診療	A	・診療支援を通じ、現場の研修医の指導にも尽力するなど、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の充実に大きく貢献している。 ・須賀川地方の周産期・小児医療の充実に貢献している。 ・診療実績として、診察患者数、延べ人数等を含めた実数をそれぞれの病院、診療科で報告してもらいたい。
災害医療支援講座	研究	A	・寄附目的に沿っている活動であり、成果に結び付いている。 ・被災地の医療の現状を広く情報発信していることで、医師の招聘につながっている。 ・9つの病院、診療所で研究が展開されている点は評価できる。 ・必要に応じて、計画を見直すよう希望する。 ・被災地の診療体制や勤務環境整備に関する調査により、医療確保の課題を整理してほしい。
	診療	A	・医療資源の厳しい被災地において、診療を行っていること自体が優れた取り組みである。 ・安定した診療実績を挙げているものと推定される。 ・引き続き、被災地の医療提供に尽力してもらいたい。 ・次年度はより詳細な実績を示してもらいたい。 ・診療の実際、患者数、疾患、延べ人数などの詳細を記載してもらいたい。
地域救急医療支援講座	教育	S	・コロナ禍でありながら工夫をしながら、寄附目的に沿った適切な教育活動が展開されている。 ・中学生に対する教育活動により将来医療関係に進む生徒が増加することが期待できる。 ・研修医への実践的教育を行っている。 ・症例検討会だけでなく、市内臨床研修医や病院関係者、救急隊員を対象とした講習会など、救急医療に関する教育の更なる充実を希望する。 ・中学生に対する教育について効果を測定する方法について工夫が必要である。 ・医学部学生や研修医向けの教育にも力を注いでいただきたい。 ・講演時間、タイトル、内容を記載してもらいたい。また、アンケートを行い集計するなど、効果の評価を行うようにしてもらいたい。
	研究	A	・寄附講座としての定期的な報告に加え、事業の中での寄附者との連携が図られている。 ・臨床実践に基盤をおいて、厳しい状況下でも研究を行っている。 ・毎年確実に成果を発表している。 ・二次救急病院において、初期研修医への実地研修等より市内の救急に関わる人材の育成を引き続きお願いしたい。 ・最終目標（管内のスムーズな救急搬送のあり方の構築）の実現に期待する。
	診療	S	・負担の大きい当直業務支援を実施しながらの臨床指導により福島市内の救急医療体制に貢献している。 ・コロナ感染状況で、計画を超える実績を挙げている。 ・診療実績として、診察患者数、疾患別症例数、処置数、などのデータを報告書に記載してもらいたい。

地域産婦人科 支援講座	教育	A	・困難な状況で、いわき市生徒、保護者等 3,000 人に性教育を実施していることは特筆される。 ・いわき地域での性感染症や人工妊娠中絶の数が実際に減少したか否か、性教育の効果を数字で示せないものか。 ・コロナ禍ではあったものの、オンライン講演会など別な方法で教育活動ができたのではないか。
	研究	C	・研究の計画に無理があるのではないだろうか。教育や診療で大きな働きをしているので、研究はそれを取りまとめるようなテーマにしてはどうか。計画が進んでいないことから評価が厳しくならざるを得ない。 ・平成 31 年より開始されている研究にも関わらず、これまでに成果報告がない。活動内容も漠然としており、今後の計画も具体性がない。
	診療	S	・地域医療をしっかり支えている。 ・診療は充分以上の実績が挙がっているものと評価できる。 ・産科、婦人科とも地域の中心的な診療機関としての責任を十分果たしている。
白河総合診療 アカデミー	教育	S	・フルマッチは充実した研修内容が評価された賜物だと考えられる。 ・教育活動を実践して医師とスタッフの意欲を高めている。 ・専攻医やフェローを獲得できていることは評価できる。 ・効果の評価に関しては、参加者からの客観的なデータの取得が望ましい。
	研究	S	・期待を大きく超える研究実績を挙げている。 ・活発な学術活動が行われており、期待通りの成果を上げている。 ・講座の更なる発展に向けて研究を充実されたい。
	診療	S	・入院、外来、救急対応のほか、新型コロナウイルス感染症病棟で中心的な役割を果たした。 ・前年を下回ったが、卓越した診療実績を成している。 ・予定していた診療はできていないかもしれないが、コロナウイルス感染症に対応していることは十分に評価できる。
東白川 整形外科 アカデミー	研究	A	・目的に沿った適切な診療活動が展開されており、期待どおりの成果を上げているものと認められる。 ・研究の結果を踏まえ（地域の需要）、適切な計画を立ててもらいたい。 ・東白川郡を中心に整外科的治療・入院が出来る唯一の医療機関として救急・手術・リハビリ等のニーズの対応をお願いする。
	診療	A	・目的に沿った診療活動の分析報告がなされ、コロナ感染問題の中でも成果を上げたと判断する。 ・疾病によっては、隣接県からの患者も受け入れており、存在意義が高まっている。 ・特にリウマチ患者の治療実績は特筆される。 ・当地域は、高齢者が多く、脊椎症、関節症、骨粗鬆症、等の治療・予防が多く、また一次産業従事者も多く、救急医療も大切。 ・地域の人口が減少する中、地域の医療を守るため、需要を踏まえて、診療内容を大きく変更するような工夫も必要ではないか。 ・受診患者数、延べ数、年次推移、疾患名などを活動報告書欄に記載した上で、その成果について検討してもらいたい。

外傷学講座	教育	B	・教育活動実施の都度、寄付者に対して内容を報告している。 ・時宜を踏まえた教育活動のあり方を模索してほしい。 ・コロナ禍の影響でセミナーが開催できなかったことは理解するが、オンライン開催や別の方法での教育機会が考えられたはずである。
	研究	S	・研究内容や治療法について定期的に全体で共有されている。 ・設置計画を大きく上回る成果と認められる。 ・年度ごとに確実に成果を上げている。 ・引き続き、研究を進め、治療成績の向上に努められたい。
	診療	S	・診療実績を毎月報告されている。 ・診療実績は大変素晴らしく水準を超えている。 ・引き続き、効果的、効率的な治療に努められたい。 ・活動内容に、年次推移などの動的要素を加えると良いのではないか。
手外科・四肢機能再建学講座	教育	A	・コロナ禍の中でも感染対策をしながら講演会を開催した。 ・設置目的に合致する教育活動を行っている。 ・コロナ禍ではあったが、可能な限り行えている。 ・時宜を踏まえた勉強会のあり方を考慮してもらいたい。 ・積極的なオンライン講演会などを推進してもらいたい。
	研究	A	・学会開催が難しい中、全国規模の学会にターゲットを絞って発表することにしている。 ・具体的な研究計画を示したほうが良い。 ・更に活発な活動を期待したい。
	診療	S	・コロナ禍で手術制限される中でも、専門性の高い手術が増加している。 ・高度な機能再建治療を実施している。 ・高度な診療が実践されている点。 ・引き続き、地域の期待に応えられる高度な治療を進められたい。
生活習慣病（ＣＫＤ）病態治療学講座	研究	A	・学術活動は活発に行われ、遠隔医療を推進したことは優れている。 ・新型コロナ感染症流行のため、CKD に関する地域連携・啓発活動はできなかったが、遠隔医療には貢献し、また多くの英文論文を発表している。 ・寄附目的に沿って活発な研究が行われている。 ・充分な成果があげられた。 ・現状に柔軟な対応が可能な研究計画を進めていってほしい。
疼痛医学講座	研究	A	・社会情勢の変化のなかでも期待以上の成果を上げている。 ・診療実績や学術活動は優れている。 ・更新初年度ではあるが、多職種連携集学的痛み治療を進め、学会シンポジウムや論文で発表している。 ・制限解除の見通しが困難なため柔軟な計画変更が必要となる可能性がある。 ・今後の活動目標をしっかり立てる必要がある。 ・研究の目的に見合った活動内容が望ましい。具体的な活動計画を示してもらいたい。

疼痛医学講座	診療	A	・社会情勢による制限はあったものの、目的に沿った診療活動は外来を中心に行われていた。 ・診療実績を積み成果をあげている。 ・新型コロナ感染症流行の中、令和 2 年度の新患患者数を維持し、診療実績をあげている。 ・特に多職種間での情報の共有がはかられている。 ・今後も状況に応じた診療活動を展開してもらいたい。 ・慢性疼痛の客観的評価法や、慢性疼痛に対する標準的治療法の確立を期待する ・研究同様、診療についても年度ごとの目標を立ててもらいたい。
スポーツ医学講座	教育	B	・新型コロナ感染症流行の中、エコーによる小学生野球肘検診を実施している。 ・地域の状況の変化に応じて持続可能な活動を行うように計画することが必要。 ・コロナの影響は理解するが、オンラインでの勉強会、学会参加が可能であり、柔軟な対応が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症蔓延のため、開催が減ったことは仕方ない。次年度の活動に期待する。
	研究	A	・学会発表は少ないが、7 本の日本語論文を発表し、啓発に貢献している。 ・研究計画を立てて目標達成の努力を期待する。 ・具体性のある活動計画が望ましい。
	診療	A	・総合南東北病院（郡山市）においてスポーツ外来診療を行い、診療実績をあげている。 ・概ね実施できていると思われるが、設置期間の診療実績が適切に管理できていない（報告書に記載がない）ので改善を要する。 ・診療実績（症例数など）の推移を確実に把握し、将来に向かって実績を向上させるよう取り組むべきである。 ・どれだけのインパクトが有ったかを一般人にもわかるような成果の記載が望ましい。
外傷再建学講座	教育	S	・将来を見据え、若手医師の育成に対する施策に重点的に取り組んでいることが評価できる。 ・計画を適切に遂行する体制がとられている。 ・新型コロナ感染症下、教育活動がなされている。 ・概ね、寄附目的に沿った実績が挙がっているものと思われる。 ・フェローの受け入れなど、成果が上がっている。 ・教育の成果を示すための調査を行い、結果に基づいた評価をしてもらいたい。
	研究	A	・研究計画、目標に沿った研究活動が展開され、対外的にもその存在感が認められるようになっている。 ・年々実績を積み上げている。 ・論文数や学会発表が増えている。今後、英文論文や国際学会での発表が増えるよう期待する。
	診療	S	・研究活動による認知度の向上により、県外から医師が加わるなど、これまでの学内からの支援に加え、診療活動の強化が図られている。 ・手術件数の伸びが素晴らしい。 ・寄附目的に沿って格段の診療実績を挙げている。

低侵襲腫瘍制御学講座	研究	A	・4 年間の研究期間を通じ、成果が論文、学会発表として報告され、一貫性がある。 ・格段な研究実績と認められる。 ・多くの英文論文が発表されている。 ・研究期間における計画が達成されたかを確認できない。
運動器骨代謝学講座	教育	B	・コロナ禍、学生や病院スタッフ、企業に対してよく啓発活動している。 ・困難な状況で教育実施を行う努力が感じられる。 ・講座設立の目的に沿って計画し直し活性化する。 ・コロナの影響もあり、講演会の現地開催は困難であった可能性はあるが、参加人数が不明、効果の評価がすべて同じであり、これでは検証できているとは言えない。アンケート機能や分析を行って、ニーズに合致し他教育がされているかどうかを把握する必要がある。
	研究	C	・学会発表や論文執筆などができている。 ・コロナ禍、よく学会発表している。 ・骨軟部腫瘍診療と研究に期待が持てる。 ・計画を十分に実施できていない。活発な活動を期待する。 ・この環境下で行える研究計画を是非立ててもらいたい。 ・研究活動が乏しく、成果が見られない。 ・報告書をしっかり記載すること。
総合内科・臨床感染症学講座	教育	S	・地域、病院スタッフ、学生など対象を広く教育活動が行われている。 ・令和 2 年は教育を行うため人材確保や教育の基盤作りがよく行われたと認める。 ・格段に上質な教育活動を実践している。 ・立ち上げの半年であるにもかかわらず、順調に活動している。 ・年度途中（10 月）の開設であり、今後に期待する。
	研究	A	・目的の実現のために意欲的に研究がなされている。 ・設置目的に沿い、研究が順調にスタートしている。 ・AMED や大学院生の確保など、来年度以降に向け、大変順調な立ち上げが進んでいる。 ・初年度ということもあり、準備期間が主であったが、AMED も獲得しており、今後が期待される。
	診療	A	・新型コロナ感染症の流行に対して重点医療機関としてよく対応していると認める。 ・急性期の入院管理を始め地域医療への貢献意欲も高い。 ・講座開設半年で、地域医療の中心として活躍しているのはすばらしい。
地域包括的癌診療研究講座	研究	A	・会津中央病院で講演もおこなわれており、コロナ禍努力されていると認める。 ・立ち上げの期間として、適切に進んでいる。 ・がん集学的治療センターの設立に期待する。 ・初年度ということもあろうかと思うが、進捗が見えない。今後の具体的な研究計画を示す必要があると思う。 ・来年度以降、実際に成果があげられるよう、活躍を期待する。

３　評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を今後の活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策等は、以下のとおりです。

＜心臓病先進治療学講座＞
・学生には講義におけるミニテストや卒業試験などで学習効果を確認している。
・今年度はコロナの影響もあり、直接的な市民・医師への啓蒙・教育活動が困難となったため、1)日本循環器学会における WEB での市民公開講座や 2)福島県医師会での TV 放送、3) 検査技師会での教育活動・WEB 講演などメディアや WEB を活用した教育および啓蒙活動に取り組んだ。

＜肺高血圧先進医療学講座＞
・設置期間中の研究から新たな未解明点が生じたものや、臨床応用への発展がこれからとなる研究もあり、それらを課題として今後も研究活動を継続していく。
・新たに注目したバイオマーカーが、右室容量と組み合わせることで、より鋭敏な肺動脈圧の予測指標となることを 2021 年のアメリカ心臓病学会において報告予定である。
・左心疾患由来肺高血圧症の予後診断に関する我々の研究成果は、日本循環器学会の肺高血圧症治療ガイドラインに引用され、日常診療に貢献している。
・寄附講座終了後も、研究・後継医の育成・地域基幹病院における肺高血圧症の診療体制の維持に尽力したい。

＜生体機能イメージング講座＞
・今後は PET のみでなく、MRI 等も含めた統合的なイメージング研究を行う。
・PET トレーサの開発は引き続き行い、その臨床応用を MRI 等と組み合わせて行う。
・PET を中心とするマルチモダルイメージングによる臨床応用を進め、論文発表および国内外の学会発表を積極的に行う。

＜多発性硬化症治療学講座＞
・講義のみならず臨床現場での実践的な教育を継続していきたい。
・教育の効果についてアンケートなどを用いて双方向的に検証していきたい。
・コロナ禍で Web を活用しリモートでの講演や臨床検討の機会が国内外を問わず格段に増加している。それらも今後さらに利用していきたい。
・専門医療を地域内外の先生方と協力して推進していきます。

＜医療エレクトロニクス研究講座＞
・研究成果についてさらに精進し、機会をみて HP などを通じて報告する。
・臨床応用ならびに論文化に努めていく。

＜心臓調律制御医学講座＞
・教育活動について、より具体的に評価／検証を行っていく。
・報告が不十分であったが、医療スタッフ向けの教育活動として、循環器内科専攻医および看護師対象の勉強会等実施している。
・県内全域の不整脈診療ニーズに応えるべく、診療を継続・発展させていく。

＜肥満・体内炎症解析研究講座＞
・適切かつ具体的な研究計画の記載に努める。
・研究成果の臨床応用やその後の方向性・ビジョン等について、とりまとめに努めていく。

＜ヒト神経生理学講座＞
・脊髄損傷患者、脳血管障害患者の方に歩行に関する治療が適応できるように、研究を継続する。
・安全性の確認が primary endpoint の特定臨床研究であるため、まずはこの刺激が安全なことを報告する。Secondary endpoint の有効性も確認されると思われる。
・臨床応用に関しては、特定臨床研究の結果が出てからとなるため、その時期に改めて報告する。

＜周産期・小児地域医療支援講座＞
・須賀川地方の周産期･小児地域医療に関する医療統計や受療動向を引き続き調査していく。
・震災や国立病院機構福島病院の周産期医療停止がもたらした影響について、論文化を目指したい。
・須賀川地方の周産期・小児医療の充実のために、継続した医療調査を行うとともに、産科・小児科医の育成を目指す。

＜災害医療支援講座＞
・被災地の医療機関で診療に従事しながら臨床データを蓄積する体制を継続し、今後も地域医療の充実に貢献していく。
・年１回開催の福島災害医療研究会での研究報告は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オンライン開催など適切な開催方法を検討しながら継続していく。また、研究会の記録集を作成し、寄附者への配布やホームページへの掲載により広く情報発信していく。
・ミーティングにおいて設置計画に沿った研究となっているか等、継続的に研究計画の見直しを行うと共に、十分な成果が得られているか検証を行う。

＜地域救急医療支援講座＞
・本研究の解析には消防署と各二次医療機関からの個人情報の取得となること、2020 年 12 月までの解析のため慎重に解析している。2021 年中には結果を出す。

・引き続き活動を行いながら、寄附者からのニーズも受け入れて、さらなる活動につなげたい。
・現在、解析中の時間外救急の受療動向を基に、最終目標の実現につながるあらたな対策を目指す。

＜地域産婦人科支援講座＞
・現在、いわき市における反復中絶は減少している。引き続き、啓発活動を行っていく。
・現在、大学と協同で、妊婦さんを対象とした終末糖化産物(AGEs) を測定している。また、卵巣癌の播出標本を用いてクローディンの免疫染色を行い、予後との比較を行っている。
・昨年同様、里帰り分娩の受け入れは積極的に行ったが、それ以外の方針としては、いわき市医療センターが子宮体癌腹腔鏡の手術認定施設となった。

＜白河総合診療アカデミー＞
・専攻医・フェローにとって魅力ある教育環境を提供できるよう、現在の活動を継続・発展させていく。
・本邦における総合診療、プライマリ・ケアに関するエビデンスの国際的発信を目指し、引き続き、研究活動を推進する。
・COVID-19 感染症が依然として猛威を振るう中で、県南の COVID-19 感染症診療の中心的な役割を担い、さらに他の疾患患者の診療に不都合がでないように配慮しながら、引き続き診療を継続していく。

＜東白川整形外科アカデミー＞
・中山間地域での整形外科診療についての研究とともに、若手整形外科医師の生涯教育という観点から、若手教員の研究・発表・論文執筆を指導し、研究業績を増やせるような体制を構築中である。
・現在は、「診療体制の再建」から「診療体制の維持」のフェーズとなっている。来年度以降も、各教員の診療能力・技術に応じて研究内容も随時見直していく。
・昨年度からのコロナ禍の影響もあり、高齢化と人口減少の進む中山間地域である東白川地区においては、患者数の大幅な増加は困難である可能性が高いが、派遣された医師の能力を生かし、受診先として魅力的な診療体制を構築している。地域ニーズにも答えられているのではないかと考えている。

＜外傷学講座＞
・新型コロナウイルス感染症蔓延下でも開催できるよう、Web 形式での開催を計画し、その評価としてアンケート調査などを実施する。
・今後も積極的に学会発表・論文投稿をしていく。
・地域のニーズに合わせてさらなる診療体制強化を目指す。

＜手外科・四肢機能再建学講座＞
・講座構成員だけでなく、医療スタッフ向けの講習会、大学と協同の若手手外科医のワークショップをオンラインにて適宜行っている。
・オンラインによる勉強会だけでなく、感染対策を十分にした上での手術手技ワークショップを今年も計画している。
・最終年度となる来年度中に全ての成果の論文化を計画している。

＜生活習慣病・慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座＞
・新しい寄附講座でも継続する研究内容もあるため、引続き尽力する。

＜疼痛医学講座＞
・計画に沿って進めているが、医療経済学的な検討がまだ行われていない。今後この検討も行っていきたい。
・令和２年度までほぼ計画に沿って進めることができたため、これを維持していくことが重要であると考える。さらなる発展を遂げるための計画も考えていく。
・コロナのために入院が制限された点は残念であったが、落ち着いたら、計画通りに診療実績を上げていきたい。

＜スポーツ医学講座＞
・コロナ禍の状況をみながら検診を展開していく。
・オンラインでの参加など、状況に応じた対応を進める。

＜低侵襲腫瘍制御講座＞
・更新後も引き続き計画をたてて研究を進めていきたい。
・研究課題に対応した成果（論文）が分かるように報告する。
・進捗管理が必ずしも定期的に予定されていなかったため、進捗管理の方法を見直し、定期的に進捗確認の時間をとることとする。

＜運動器骨代謝学講座＞
・学生教育は継続実施する。市民向け啓発活動はCOVID-19感染状況により実施を検討する。

＜地域包括的癌診療研究講座＞
・過疎・山間地域における癌治療の問題点と解決策について、実践と研究を進めていく。
・がん治療センターの開所を基点に準備・実践し、開所後は変更、見直しを通してより良い活動を目指す。
・センター業務の準備と定期的な評価や改善に努める。地域のがん診療に資するための対策など研究を行っていく。